

特集：2017年「音の日」

第4回学生の制作する音楽録音コンテスト報告

日本オーディオ協会 音の日委員会 副委員長(CSポート(株))

高松 重治

1 受賞作品発表

- 1.1 最優秀賞 中村 涼真 (ナカムラ リョウマ) さん
洗足学園音楽大学 音楽音響デザイン録音コース 4年
- 1.2 優秀企画賞 石川 莉帆 (イシカワ リオ) さん
尚美学園大学 芸術情報学部 情報表現学科 4年
- 1.3 優秀音楽作品賞 古澤 太嗣 (フルサワ タイシ) さん
日本工学院専門学校 ミュージックカレッジ
レコーディングクリエイター科 2年
- 1.4 優秀録音技術賞 永田 悠 (ナガタ ハルカ) さん
McGill University Sound Recording 2年
- 1.5 敢闘賞 古内 奏子 (フルウチ カナコ) さん
専門学校名古屋ビジュアルアーツ 音響学科 2年



校條 会長から表彰状を授与される、中村さん（左上）、石川さん（右上）、古澤さん（左下）、古内さん（右下）【永田さんはカナダ在住の為欠席】

2 はじめに

一般社団法人日本オーディオ協会(以降協会と略)は主に再生機器(ハードウェア)メーカーの集まりですが、オーディオには音源(ソフトウェア)がなければ成り立ちません。

協会創立者のお一人、そして音響工学の権威であられた伊藤 毅先生のご遺志「芸術的にも高水準で技術的にも高品質の録音音楽を制作するための要員養成の重要性」に基づき、2014年から始まったオーディオ文化の継承である、協会「音の日」のメインイベントの一つである本題目のコンテストは、穴澤副委員長が強力で推進されてきました。穴澤氏は昨年6月に病床に伏し、小生が代理を務めましたがお安心ください、昨年暮れの協会の納会に元気な姿で参加されています。

3 コンテストの概要

募集要項にも書かれている通り、本コンテストはオーディオ文化を広め、楽しさと人間性に溢れた社会を創造すべく、健全な「音楽録音」と「再生録音」の発達を期待するものです。

審査をして頂いたのは6項に紹介する録音を指導する先生方で、小生のみがリスナーの代表として加わりました。

4 応募要項などの詳細

4.1 主催：一般社団法人日本オーディオ協会

4.2 共催：Audio Engineering Society 日本学生支部

4.3 協力：Audio Engineering Society 日本支部

4.4 応募資格：「音楽録音に興味を持つ学生の個人またはグループ」(高校生以上の学生)

4.5 応募期間等

受付開始日：2017年6月21日(水)

応募締切日：2017年10月27日(金)必着

4.6 応募作品作成期間：2017年1月1日以降

5 審査員構成(審査委員氏名と所属先、敬称略、順不同)

千葉 精一：所属 一般社団法人日本オーディオ協会諮問委員

亀川 徹：所属 東京芸術大学音楽学部

長江 和哉：所属 名古屋芸術大学音楽学部

我妻 拓：所属 日本工学院専門学校

深田 晃：所属 dream window inc.

中村 寛：所属 (株)WOWOW、Audio Engineering Society 日本支部

柿崎 景二：所属 尚美学園大学芸術情報学部

永井 秀文：所属 音響芸術専門学校

高松 重治：所属 一般社団法人日本オーディオ協会諮問委員 (CSポート株式会社)

6 評価方法

今回は非常に多い 48 作品の応募があり大変な作業でありましたが、各先生に予め自宅などで、お聴き馴れているシステムで評点をつけていただき、最終的に例年通り亀川先生の東京藝術大学のミキサールームにて詰めを行いました。

7 採点について

配点は

- ① 企画制作力 20 点
- ② 作品の音楽性 30 点
- ③ 録音技術力 50 点

としています。「音・録音さえ良ければ」では最優秀賞は獲得できません。

どの様なものを作ろうかという企画力、そして自分の作品を如何に他に知らしめるか。それにはドキュメントが確りしていなければなりません。CDに入っているリーフレットを想像して頂けると将来へ繋がるのではなろうかと思えます。これらは「モノづくり」の基本であり、ソフトウェアやハードウェアを問わず、モノを生み出すときの共通の要求事項です。

- 作品の音楽性は内容説明に見合ったことが為されているか、素材の料理方法は、例えばどんな環境で行ったのか、どんな装置を使用したのか、各楽器への使用マイク、そしてマイキング、録音時のプロセッサー、試聴時に用いたアンプ、スピーカーなど多岐に渡ってのデータや説明が求められます。それは文章や配置図など多岐に渡る説明方法があります。
- 自分がプロデューサーですからその気持ちを表すことが求められます。これらは既成の素材では有り得ないのです。
- 録音技術力、これは実際の試聴によって採点します。
- 先程の企画力・音楽性のドキュメントを参照しながら音を聴きます。
- 試聴の方法は各自の慣れた再生装置で聴き、更に同一システムで一堂に介して試聴しましたので、例年より精度の高い評価を得ています。

8 応募作品

8.1 応募は次に掲げた教育機関からありました。(順不同)

McGill University (CANADA)

専門学校名古屋ビジュアルアーツ

音響芸術専門学校

HAL 大阪

洗足学園音楽大学

名古屋芸術大学

尚美学園大学

日本工学院専門学校

東京藝術大学

HAL 東京

8.2 応募作品数・応募人数

今回は応募要項の見落としなどがあり、既成音源を個人別でマスタリングしたものの応募が多数ありました。見方によってはマスタリングのみの変化で面白かったのですが、後述する採点で大幅減になるハプニングがありました。しかし大変に多くの応募に感謝したところです。

応募作品数：48 作品

作品形態

2チャンネル作品：43 点

5.1チャンネル作品：5 点

応募人数：応募申込書による演奏者まで含め総勢 146 名

8.3 賞

採点について7項で述べましたが、「企画力」「作品の音楽性」「録音技術力」について其々の最高点を其々の賞としました。そして総得点の最高点を「最優秀賞」としました。今回だけの特別な「敢闘賞」は本来ならば失格に値する独自の作品ではないものを使用したものが、余りにも多かった為、企画力、作品の音楽性について大幅な減点としましたが、その中でも高得点であったものを敢闘賞としました。これは今回だけの限定的な賞です。

9 むすび

2017年の音の日は森 芳久 実行委員長の下、今回も目黒雅叙園で開催されました。丁度 140年前の1877年12月6日、エジソンの蓄音機から発した音から始まりこんにち迄オーディオは連続と続いています。そして協会設立65周年の記念すべき年に当たりました。最近ではデジタル処理によって録音のプロセスは昔ほど難しくは無くなっています。なかんずく音楽の再現(再生)は芸術であり、演奏家の表現が聴取者に伝わっているか、その大事なプロセスを担う人が録音制作者であります。

デジタルの録音システムでもいまだに昔に製造された真空管増幅のマイクロフォンが珍重されています。また米国ではアナログ録音がリバイバルし、更にアナログLPレコードやアナログテープまで販売されている現状であります。日本でも中古LPレコードの取引が増加し、アナログ関係のオーディオ製品が再び多くなってきました。レコード会社ではLPカッティングマシンの再導入など、アナログレコードの見直しが盛んになって来ました。今年の「音の日」にはアナログ部門が出来るかもしれません。

音の日のこの発表会には制作された学生が43名も参加され、短時間ではありましたが一般のオーディオ愛好者らと共に実際に試聴されて、今後の学業にプラスされる事と思います。

最後になりましたが、今回のコンテストの運営にあたり、多くの人のご協力がありましたことに改めて感謝を申し上げますと共に「よい音」「よい録音」が継承されてゆくことを念じてやみません。